

## VR安全教育で事故防止

# 指導効率化にも成果

まるだいの運輸倉庫

まるだいの運輸倉庫（秋元美里社長、神奈川県小田原市）は、VR（仮想現実）による安全教育により、交通事故防止だけでなく指導・教育の効率化でも成果を上げている。7月から代理店業務も開始。地域の運送会社や協力会社への販売をビジネス化していく。

（吉田英行）

## 資料作成など666時間削減

運輸、倉庫、委託の各事業をメインに手掛け、社員は252人。

運輸事業部は軽自動車から大型車、トレーラまで多様な車両を保有し、医薬品、食品、精密機器、原材料などを幅広く扱う。倉庫は小田原市を中心に常温、空調、冷蔵、冷凍の温度帯

の倉庫を展開。委託事業では荷主ごとにカスタマイズした3PL（サードパーティー・ロジスティクス）事業などを行っている。

VRによる安全教育動画は2024年9月に導入。

スタントマンが再現した交通事故やヒヤリ・ハットの動画をVRで視聴しながら

疑似体験し、安全教育のポイントを学ぶWacwac（佐々木章太社長、東京都練馬区）のサービスを取り入れ、運輸事業部で点呼時に活用している。

これまでも安全教育には力を入れてきたが、時間外労働の上限規制や深刻化する人手不足、人件費高騰の

中で、安全教育に充てる時間と費用が経営に大きな影響を与えるようになってきた。また、資料作成など指導

「物流業界は今、大きな転換期。長距離輸送は収益率が悪化し、地場のラストワンマイルの車両は不足している。こうした状況の中、あらゆる効率化によって機会損失をなくし、収益

役の管理職の業務負担も増していた。大手と異なり、社内で教育を担当できる管理職は限られており、その人に業務が集中して属人化するという課題も抱えていた。

確保と輸送の安全確保を両輪で進める必要がある」と秋元社長は考え、質の高い教育と効率化を両立できる

## 代理店業務開始 普及貢献

7月からは代理店ビジネスもスタートさせている。グループ会社のエムアイジャパン（関根聖奈社長、小田原市）がWacwacと代理店契約を結び、まるだいの営業部とも連携して、地域の運送会社や協力会社への販売を進めていく。

秋元氏も「VRは臨場感、没入体験、短期集中が

大きな効果をもたらしている。指導の効率化で売り上げアップの機会損失をなくせば、今後の待遇改善の原資確保にもつながることができる。教育は管理職の能力だけに頼らず、仕組みでカバーすることも大事」と話している。

ツールとしてVRに着目した。VR動画の内容は、国土交通省が定める指導・監督指針12項目に基づくコンテンツが基本。点呼時に1回5分程度視聴し、毎月1項目ずつ受講することで、運送事業者が義務付けられているドライバーに対する指導が完了する。受講記録も残るため教育の管理もしやすい。12項目以外にも、初任者向けの動画を選んだら、自社のヒヤリ・ハット事例を再現した動画を作ることなども可能だ。VR導入で事故削減効果が既に表れている。導入直後の24年9月～25年1月の荷役事故、車両事故、整備不良などの事故件数が計6件だったのに対し、その後の25年2～7月は1件にとどまっている。また、同社の試算によると、VRの活用により、管理職が資料作成に費やす時間が年間100時間、ドライパー71人に対する集合教育426時間、運行管理者・補助者に対する教育30時間などがそれぞれ削減でき、安全関係に充てていた時間を年間で計666時間減らすことができる見込みだ。

このほか、休日に行う集合教育での休日出勤手当、事故に伴う車両修繕費、対人・対物保険の免責支払い金額などを含めると、削減できるコストは年間330万円以上になることも分かった。今後は、フォークリフト用の倉庫版のVR動画の自社での導入も検討していく。



まるだいの秋元社長⑤とエムアイジャパンの関根社長